

BOOK TRAIN

ブックトレイン

千代田区立図書館
学校支援担当発行
夏のおたより
中学生版
2018.7

中学生のみなさんにおすすめの本を紹介します。



のマークは気軽に読める本、



のマークは読みごたえのある本です。



『カレーライスを一から作る 関野吉晴ゼミ』



前田亜紀/著 ポプラ社

それは、すべてを「一」から作る、9か月のチャレンジだった。

「一からカレーライスをつくる」。探検家・関野吉晴氏が、大学の授業で立ち上げた計画である。ただ食材を育てるだけではない。調味料や食器まで、文字通り「一」から作るという。ふだん当たり前前に食べているものが、どんな道のりを経てきているのか、身をもって知った学生たちが持つ「覚悟」とは、「関野ゼミ」の9ヶ月間に及ぶチャレンジを追った記録。



『ガラスの封筒と海と』



アレックス・シアラー/著 金原瑞人/訳 西本かおる/訳 求龍堂

海へ行って、瓶を探そう。トムからの手紙が入っている瓶を。

1年前、船乗りだったトムの父親は、海難事故で行方不明になった。乗組員はだれも見つからず、それからは母親も姉もつらい思いをしている。そんなある日、トムは瓶に入れた手紙を海へ流した。返事は来ないだろうと思いながら…。ところがある日、返事が届く。その差出人は思いがけない人物だった。家族と海を愛する少年に起こる、不思議と奇跡の物語。



『せいめいのれきし 改訂版 地球上にせいめいがうまれたときからいままでのおはなし』



バージニア・リー・バートン/文・絵 いしいももこ/訳 まなべまこと/監修 岩波書店

さあ、壮大な「せいめいのれきし」の幕開けです。

太陽の誕生からはじまる壮大な「せいめいのれきし」を、舞台を見ているかのように描いた絵本。豊かな表現と確かな知識で、今も、児童文学者や科学者に愛され続けている。絵も魅力的で、隅から隅まで堪能してほしい名作。刊行から50年を経て、新たに分かった内容を盛り込んだ改訂版。





『南風吹く』



森谷明子/著 光文社

悩み・悲しみ・喜び…すべてを十七音にこめた高校生たちの青春！

海に囲まれた小さな島にある唯一の高校、愛媛県立越智高等学校五木分校は廃校が決まった。バスケの大会に出場できなくなった高校3年生の航太は、同級生の日向子に巻き込まれて「俳句甲子園」を目指すことになる。出場できるかどうかの鍵を握るのは、幼馴染で親友の恵一。航太たちは恵一を説得し、俳句甲子園に出場することができるのだろうか。



『大人を黙らせるインターネットの歩き方』



小木曾健/著 筑摩書房

インターネットはただの道具です。

中学生にとっては欠かせないインターネット。しかし、そこには多くの危険が潜んでいて、大人たちはいつも心配ばかりしている。「スマホ依存」「ネットいじめ」「個人特定」…いろいろと問題はあっても、本質をきちんと理解している人はどの位いるのだろうか？ 大人も知らないことが多いネットと上手に付き合うために、自ら学ぶ入門書となる一冊。



『ファニー 13歳の指揮官』



ファニー・ベン＝アミ/著 ガリラ・ロンフェデル・アミット/編 伏見操/訳 岩波書店

生きるために奮闘した、わずか13歳の少女を描いた実話

ファニーはナチス・ドイツから逃げてきたユダヤ人。ある日突然、秘密警察がやってきて父親が連行され、母親とも離れ離れになってしまう。その後13歳になったファニーを中心に、中立国であるスイスを目指す、子どもたちだけの逃亡がはじまる。何があっても絶対にあきらめず、「生きるんだ」という強い意志がファニーを突き動かしていく。



『八月の暑さのなかで ホラー短編集』



金原瑞人/編訳 岩波書店

幽霊、怪物、そして人間。あなたが一番恐ろしいものは？

自分が描いた人物と瓜二つの男と出会ったことで狂っていく画家の行く末（「八月の暑さのなかで」）。水底に沈む美しい女の顔に魅了された男の数奇な体験（「顔」）。5歳の息子だけに見える亡霊によって、次第に追い詰められていく家族（「ハリー」）。海外児童文学を多数翻訳している、金原瑞人氏が厳選した、背筋も凍る怖い話を集めた短編集。

